

2019年度富山県在宅医療推進加速化事業成果報告

No	事業名	申請者	実施内容	事業成果
1	在宅医療談話会	高岡市医師会	<p>①2019年7月3日(火)レクチャー「訪問看護ステーションのアンケート結果について」32名参加 講師: 寶田茂先生から講義後に質疑応答。</p> <p>②2019年9月3日(火)レクチャー「がん性疼痛に対する薬物治療」27名参加 講師: 村上望先生から講義後に質疑応答。</p> <p>③2019年11月5日(火)レクチャー「非侵襲的陽圧換気療法在宅管理」22名参加 講師: 篠田千恵先生から講義後に質疑応答。</p> <p>④2020年1月7日(火)レクチャー「オピオイド以外のがん性疼痛管理について」28名参加 講師: 野原淳司先生から講義後に質疑応答。</p>	<p>訪問看護師へのアンケート結果より、より良い連携をするためには顔の見える関係を構築することと情報共有を怠らないことが重要であることが分かった。今後多職種連携促進に寄与すると思われる。在宅医療の現場で対応に困ることが多いがん性疼痛に対する薬物療法、非侵襲的陽圧換気療法、オピオイド以外のがん性疼痛管理について専門医からレクチャーを受けたことで実践的な知識を得る機会となった。このことにより、これらの分野に取り組もうとする医師が増加することが期待される。</p>
2	緩和ケアグループワーク	高岡市医師会	<p>2019年12月3日(月)緩和ケアグループワーク79名参加 レクチャー1:「人生会議(ACP)について」 講師: 林智彦先生 検討事例:「3回のACPと頻回訪問診療によって在宅看取りが叶った直腸癌末期症例」に関して小グループに分かれ、グループワークで検討 レクチャー2:「ICTを使った地域との連携について～人生会議における医療・ケアの決定プロセスの情報共有～」 講師: 川上範子先生</p>	<p>昨年度より患者の意思決定支援に関する事業に取り組んできた。アンケート結果では人生会議の認知度が昨年度の79.1%より83%に上昇していた。また、現時点で参加者の60%が人生会議に参加したことがあると答え、96%が今後人生会議に参加したいと答えている。この事業の継続により在宅での意思決定支援の取り組みがさらに進むものと期待される。</p>
3	摂食嚥下研修会	高岡市医師会	<p>2019年11月1日(金)摂食嚥下研修会68名参加 テーマ「ポジショニングについて」 レクチャー1:「見逃さないで!摂食嚥下障害のサイン」 講師: 尾崎佐有里先生 レクチャー2:「済生会高岡病院摂食嚥下外来について」 講師: 小竹源紀先生 レクチャー3:「食事の姿勢について」 講師: 藤井智子先生</p>	<p>アンケート結果より、それぞれのレクチャーの内容に関して参加者の89～96%が「大変良かった」「まあまあ良かった」と回答した。今後、参加者の51%がレクチャー形式、31%が症例検討での研修会の開催を希望していると答えている。この事業に関心の高いテーマを選択し要望の多い開催形式にて開催することで当医療圏での摂食嚥下評価に対する知識、技術向上が高まるものと期待される。</p>
4	在宅医療の推進に携わる医療・介護・福祉関係者のための研修事業	中新川郡医師会	<p>①2019年7月6日(土) 第1回 講義と演習:「終末期について学ぼう～誰にも訪れる人生のまとめの時間を医療の観点から～」33名参加 講義とグループワーク 講師: かみいち総合病院 看護師長代理 緩和ケア認定看護師 水野博美氏、かみいち総合病院 主任看護師 緩和ケア認知看護師 織田明氏</p> <p>②2019年8月24日(土) 第2回 とやまいぴー: ごちゃまぜ事例検討会 最期まで住み慣れた場所で過ごしたい～でも、もし何かあったらどうすんがけ?～ 77名参加。</p>	<p>第1回 33名参加講義を通し緩和ケアに関する基礎的知識を学ぶとともに多職種によるグループワークを通し職種間での考えの違い、視点の違いなどを学ぶことができた。</p> <p>第2回 77名が参加しうち学生が36%、実務者が64%であった。緩和ケア、家族ケアについて学び考える良い機会になった、多くの知見を得ることができたという意見や他の職種がどのように働いているか知るきっかけになった、他の職種への理解が深まった、多職種のリソースの活用につながるなどといった意見が聞かれ、実際の仕事に役立つ多職種連携が学べていることがうかがえた。</p>

No	事業名	申請者	実施内容	事業成果
4	在宅医療の推進に携わる医療・介護・福祉関係者のための研修事業	中新川郡医師会	<p>③2019年12月1日(土) 第3回 講義と演習:「家族システムについて学ぼう～自分自身のことなのに、どうして家族が決めてしまうの～」21名参加</p> <p>講師:一般社団法人寺本社会福祉士事務所 代表 寺本紀子様</p>	<p>第3回 21名の参加があり、参加者からは高い満足度を得られた。 具体的な感想として家族を理解することの重要性と理解しようとすることの大切さ。患者さんだけをみるのではなく、家族全体をみるが必要だと感じました。名前を決めた経緯を聞くだけで、家族の関係性や生活史が見えてきて面白かったです。家族システム全体を理解して、一緒に今後のことを考えられる支援者になりたいと思いました。患者さんの生活史を見据えてケアを計画していく必要性を理解できた。などといった感想があり、家族、家族システムの理解に大いに役立ったことがうかがえた。</p>
			<p>④2019年11月17日(土) 第4回 講義と演習:「家族造形法を学ぼう～家族の関係性を捉えてみよう～」25名参加</p> <p>講師:児童養護施設「京都大和の家」施設長 同志社大学教授早樫一雄氏</p>	<p>第4回 25名の参加があった。実際の家族造形法を利用した事例検討は普段と異なった視点から症例を見つめることができ、新たな発見の多い研修会であった具体的な感想として事例及び家族になりき実際に動くことで普段の支援では見えてこない問題や思いが見えて勉強になった。立場、家族によって見え方や感じ方が違うことがわかった。それぞれの立場に立っての思い、役割を通して考えることができ、明日からの仕事に役立てることができるなどの感想があった。</p>
5	富山市医師会在宅医療支援2019	富山市医師会	<p>2019年9月28日(土) 在宅医療シンポジウム テーマ「多職種協働で住み慣れた地域で最期まで」 63名参加</p> <p>-----</p> <p>講演:「統計資料から見た富山県の在宅医療」 富山協立病院 院長 山本美和 氏</p> <p>-----</p> <p>講演:「地域包括ケアの評価指標としての地域看取率・自宅看取率ならびに愛知県における独居死(孤独死・孤立死)の分析」 愛知県医師会理事 野田正治 氏</p> <p>-----</p> <p>シンポジウム:テーマ「これからの在宅利用を考える」</p>	<p>3回の講習会・研修会それぞれに60～70名の参加があった。参加者には在宅医療の現状・課題を認知していただいたほか、ACPやICTツールの利用方法など在宅医療の質を上げるための知識を習得していただいたと考える。また、ACP研修会とICTツール研修会においてはグループワークや演習を行い、多職種間で面識を広げていただくことで連携強化につなげていただくことができたと考える。</p>
			<p>2020年1月24日(金) ACP研修会 テーマ「ACPと在宅医療を繋ぐ」 72名参加</p> <p>-----</p> <p>講演:「患者の意向を尊重した意思決定支援」 富山赤十字病院 緩和治療センター長 小林 孝一郎 氏</p> <p>-----</p> <p>グループワーク: テーマ「在宅医療でのACPの現状と対策」</p>	
			<p>2020年2月21日(金) 医療介護情報共有ICTツール研修会 テーマ「診療工房とバイタルリンクを使っての情報共有と連携・協働」 63名参加</p> <p>-----</p> <p>講演:「診療工房による医療情報共有と文書管理」 公益社団法人富山市医師会会長 吉山 泉 氏</p> <p>-----</p> <p>講演: 「バイタルリンクによる多職種情報共有と協働」 やまだホームケアクリニック院長 山田 毅 氏</p> <p>-----</p> <p>意見交換:テーマ「医療・介護情報共有のためのICTツールについて」</p>	